



サフラン便り

第57号 24年6月15日発行

発行：佐賀県薬剤師会女性薬部会

佐賀市本庄町大字本庄 1269-1

TEL:0952-23-8931 FAX:0952-23-8941

<http://www.sagayaku.or.jp/josei/index.html>

肝疾患診療連携研修会 報告

佐賀県の肝炎・肝がんを減らすための切り札 - 地域ぐるみと多職種協働 -

肝疾患医療支援学講座 教授（肝疾患センター センター長） 江口有一郎 先生

佐賀県は肝がん死亡率12年連続ワースト1位。肝がんの原因の多くはB型肝炎ウイルスやC型肝炎ウイルスの感染です。肝がん対策の第一歩は、肝炎ウイルス検査が不可欠。そして陽性であればウイルス駆除をすることです。たとえ駆除出来なくてもウイルスを減らしたり有効な肝庇護を行うことで発がんのリスクを減らせます。逆に言えば「ウイルス検査」-「診断」-「治療」がうまく連携してウイルス駆除までたどり着かなければ肝がんを減らすことは出来ません。

これまで行政、医師会、大学などの医療機関が取り組んできましたが、それぞれの問題が浮き彫りになってきました。そこでそれらの阻害要因を解明、克服し、肝がん死亡率ワーストワンの汚名返上のために平成24年1月1日

佐賀大学に「肝疾患医療支援学講座（佐賀県による寄附講座）」と

「肝疾患センター」が開設されました。具体的には、行政、医師会、

県内の専門医療機関とも真の連携の元、悲願であった佐賀県ウイルス性肝疾患データベースを構築し、ICTを活用した肝炎治療パスの運用によって佐賀県の肝炎マネージメントを均てん化し、また肝炎コーディネーターを養成して啓発活動を継続的に実施します。さらに肝炎で悩む、または自分が肝炎ウイルスに感染しているかを知る機会のない一般の方に対して、地域のすべての医療者が連携して情報提供や支援を行えるような体制作りを目指しています。

今回は市民、日常社会に最も近い距離で医療に携わる薬剤師の皆さんと、普段接する可能性が高いウイルス性肝疾患、肝硬変の最新の診断、さらに処方箋に記される治療について日常臨床の視点で議論し、地域ぐるみの肝がん撲滅に薬剤師の皆さんも参画いただける機会をさぐりたいと思います。「肝がんワーストワンの汚名返上には、地域ぐるみで、そして多職種協働が切り札」なのです。（江口先生からの文章をそのまま掲載させてもらいました。）

肝疾患センターの取り組みを薬局でもしていく事が重要です。研修会后、努めて肝疾患の患者様に相談窓口の連絡先を書いたポスターを掲示して興味をもっていただけるように、インターネットをされている方には肝疾患センターのホームページを紹介しています。今回の連携は「産官学」の協働連携です。

<肝疾患センターイベント情報>

日時：7月29日（日） 13：30～17：00

場所：アバンセホール

内容：県民公開講座「もっと知ろう肝臓病のこと—知らなきゃ損する佐賀県の制度」



佐賀大学医学部附属病院

肝疾患センター さが肝net HPより

<乳児の哺育料並びに胃腸障害者の栄養食料として適合する理由>

牛乳蛋白中に人乳の三倍も多く含有せる(カゼイン)乾酪素が、乳児の体質を弱めたり、殺菌力の欠乏を来したり、抵抗力を弱めたりする所の憂いを除くと共に特に虚弱な乳児にても容易に消化され吸収される事は「乳児の大便にて直ちに承認して頂く事が出来ます」且つまた世界に最も信用有ボーデンス会社の名に依って保証されてあります。尚も同会社はどんな事があっても製造上栄養価値を犠牲にすることはないと断言しています。

（米國ボーデンス・ミルク會社 ボーデンス・モルテッド・ミルク日本部 總代理店 岡本商會版）

<夏の節電対策提案>

*昨年、薬局の窓ガラスに遮熱フィルムを貼りました。夏にクーラーを28度に設定していましたが、患者さんから「冷えすぎよ」とクレームがでるくらい効きました。

今年は費用はかかりますが、照明をLEDにと考えています。費用対効果がよければ定番ですが、使っていない時間、場所は電源を切ることでしょうか。

個人的には、白衣のクールビズ素材を探しています。(佐賀市支部 島田智子)

*節電に関しては うちでは本社からいろいろ言ってきます。エアコンの設定温度、エアコンのフィルターの掃除、冷蔵庫の設定温度を適性に保つ、不要な照明を切る、打ち水をする等々。私の店舗では昨年待ち室にうちわを置いています。設定温度を28度にしたなら窓際はどうしても暑く感じるののうちわは結構使ってもらっています。



後はできるだけ残業をしないことですかね。(多久小城支部 中島しづ子)

*うちわは、昨年より置いていますが、結構患者様にも使っていただけました。それと、窓ガラスに、窓用省エネスプレー 寒い暑いその時を使っています。効果の程は不明ですが・・・

そして、スイッチ1つで何か所かの照明が点灯するようになっているのですが、窓側の比較的明るい所の照明は点灯しないように電球をはずしたりしています。(鹿島藤津支部 池田知子)

*インスリン、坐剤交付時、真夏の暑さがひどく焼けるような日には、極力時間をかけずに自宅へ持ち帰っていただくようにと話をします。(唐津東松浦支部 杉岡祐子)

*午前中はできるだけ窓をあけて対応しています・・・田舎で結構風が来ます。出窓に有田焼の風鈴を下げています・・・涼しい音色です。午後からはエアコンを入れます・・・暑くて能率わるいので。

患者さんへの座薬の投薬はお帰りの時間を聞いて、ケーキなどに入ってる保冷剤を入れて荷物用のプチプチのついたビニールで包んであげています・・・(佐賀市支部 田中須磨代)

*、待ち室の特に入り口のところに冷風が当たるようにしています。

西日がかなり当たるので、遮光フィルムを窓に貼っていますが、それでも暑いんです。

坐薬やインスリンに関しては、希望された患者さんに保冷剤をお渡しします。(鳥栖三養基支部三橋博子)

*休日前にドリンクストッカー電源を切っています。平日前夜に入にすることで電気使用量がちがいます。計画停電の場合、電子薬歴など事前準備などが必要ですね・・・(佐賀市支部 福島あさ子)

*ノートPCのバッテリーを長持ちさせるために、例えばVAIOでは「おまかせ壁紙」を選択すると通常の壁紙設定よりも最大30分ほどバッテリーが長持ちするそうです。消費電力が最小になる色を設定してみてもいいかもしれません。(宮地和子)

製薬・卸の企業では停電対策としての自家発電機を備えておられるのでしょうか、

薬局内でその設備を有している所は少ないのでは?しかし、停電になって先ず困るのが、

調剤機器です。分包機や薬品保冷庫、電子薬歴、レセコン等、手計算で果たして今のPCで対応できるのでしょうか?計画停電が3時間としてその対応を考えておきましょう。保冷庫の温度管理も必要です。電源を抜いて何時間保冷時間があるか調べておくことも必要です。



ポータブル電源という停電対策の新しい器具を見つけました。100Vで100W使用2時間、最大6台並列で使用できるとか・・・難しい事は分かりませんが、調べておくのも良いのでは?(宮地)

<ちょっと一言>

久しぶりに管弦楽団の定期演奏会を聴きに行きました。若い指揮者のパワフルな指揮に、すっかり曲の世界に引き込まれてしまいました。やはり魂のこもった作品は素晴らしいですね。

バレエのプリンシパルを彷彿とさせるような表現に、感動する事は元気の基になるんだなと感じました。佐賀県薬剤師会の会史が出来上がりました。皆様是非読んで下さい。

薬学概史は圧巻です。感動しました。(島田)